



学校だより

小和田小学校

令和8年度5月号

【学校経営方針】

一人ひとりを大切に、社会力を育み、みんなの笑顔がある学校

【学校教育目標(めざす子ども像)】

「心も体も丈夫な子」「思いやりのある子」「自ら学ぶ子」

【学校経営目標(めざす学校像)】

「学ぶ喜びを感じる学校」 「保護者、地域から信頼される学校」

「教職員が成長し合える学校」 「心落ち着くきれいな学校」

「あいさつ」は人と人をつなぐ

校長 山崎 悟史

4月6日の始業式で、初めて子どもたちの前でお話をしました。前日まで、「どんなことを話そうか・・・」と時間をかけて考えましたが、「自分・友だちを大切に」「あいさつを大切に」という話をしようとして決めました。この二つのことは、学校という場で、子どもたちがみな安全に安心して過ごしていくために、とても重要であると考えています。「あいさつ」については、私なりの捉えと子どもたちへの願いを次のように伝えました。

『心のこもったあいさつは、人の気持ちを大きく変える力があるのだと思います。心のこもったあいさつをされると相手の人は嬉しい気持ちになります。そして、あいさつした人も嬉しい気持ちになったり、今日も頑張ろうという気持ちになったりします。それだけ、あいさつはすごい力を持っています。』

校長先生は、「あいさつは人と人をつなぐ大切なやりとり」だと思っています。先生・職員の方、そして友だち・・・学校の中でたくさんのあいさつがかわされるといいなと思っています。校長先生もよいあいさつができるよう心がけていきます。』(始業式での「校長のことは」より)

入学式で1年生にも「あいさつを大切にしてください。」とお話をし、子どもたちはよく聞いてくれていました。

入学式の翌日、いよいよ全校児童がそろい日です。私は西門に立って登校の様子を見守りながら、「おはようございます」とできるだけ一人ひとりの顔を見ながらあいさつをしました。すると、多くの子どもたちから「おはようございます!」とよい表情で次々にあいさつが返ってきました。なかには、私が声をかける前にあいさつをしてくれる子もいました。その翌日は東門に立ちましたが、同じような光景が見られました。私にとって本当に嬉しいやりとりでした。もし、私からのあいさつで明るい気持ちになった子どもがいたとしたら、これほど嬉しいことはありません。

しかしながら、朝の登校時に心配や不安を抱えていたり、気持ちが今一つ乗らなかつたりすることもあると思います。そういった状況であいさつができないのはごく自然なことだとも思っています。その時は、その子の気持ちを後押しできるよう、心のこもったあいさつを届けたいです。

「あいさつ」について考えたときに、「和顔愛語(わげんあいご)」という言葉が心に浮かびます。穏やかな笑顔(和顔)と、思いやりのある優しい言葉(愛語)で人に接するという意味で、私が大切にしている言葉です。「あいさつ」を含め、子どもたち・教職員、そして保護者のみなさまと接する時に心がけてまいります。

「あいさつ」が自然とかわされ、子ども同士、子どもと先生・職員がつながり合う。そんな素敵な場面がさらにたくさん見られるよう、学校のみんなで「あいさつ」を大切にしていきます。